

クラブレベルを超える 指導者を育成するとは

茅ヶ崎湘南 松宮 剛

*「効果的なロータリー・クラブの定義」の四項目のうち、私たちが日本のロータリアンがなじめなかつたのは、唯一「クラブレベルを超えてロータリーにおいて奉仕できる指導者を育成する」ではないでしょうか。

クラブ会長を終えた会員が地区委員会の委員になる。ガバナーエレクトに評価された会員がガバナー補佐に抜擢される。そのような事態をもってクラブレベルを超えた指導者である、というのとは簡単ですが、それを国際ロータリー（RI）が願望する「指導者」と認定することには、少なからず無理がある、と私には思えます。

いまRIが推奨するクラブ研修リーダー、ならびにクラブ研修委員会のアイデアと意味は、RIが近年、いかにロータリーを捉え直し、クラブの意味を再定義したかという事実と密接に結びついているのだと思います。

すなわち「人道的奉仕活動の世

界的ネットワークを構成する一単位としてのロータリークラブが、基本的な力をつけた上でネットワークを十全に機能させる。そのためにクラブ研修リーダーを誕生させた」ということだと思います。

かつてのロータリー情報委員会のように、単にロータリーの歴史や理念が一方的に伝達されるだけでは不十分で、情報を受けたロータリアンが実践の重要性に目覚め、複数クラブの奉仕活動や地区主導の奉仕活動などの展開に必然的につながっていくという成果に到達してこそ、クラブ研修リーダー、ならびにクラブ研修委員会の存在の意味があるのです。

クラブレベルを超えた指導者が必要というアイデアも、このように世界的なネットワークを十全に機能させるためにこそ欠かせないのです。

従来、私たちが認識してきた「背景としての地域社会に貢献する」、「異業種の会員相互の交流による自己改善の場」というクラブ本来の存在意義は、RIでは大きな部分を占めていないのかもしれない。

しかしながら、私たちは本来の

クラブの存在意義を深く認識した上で、ネットワークの構成員としてのクラブの意味を調和的に語りながら、「クラブ研修リーダー」の位置づけをしなければならぬと思います。それが日本のロータ

リーにあつて、効果的なクラブの四つの要素を、確信を持って語る前提となるのです。

（第二七八〇地区 神奈川県 口腔外科）